

# 実社会対応プログラム(公募型研究テーマ)

◆課題(研究領域):「制度、文化、公共心と経済社会の相互関連」

◆研究テーマ:「私益と公益が錯綜する公共的意思決定のプロセスデザインに関する研究」

研究期間:H27.10~H30.9

委託費総額:11,270千円

## <研究代表者>

大沼進:北海道大学大学院文学研究科/准教授



<専門分野>  
環境社会心理学

<Webページ>  
<http://lynx.let.hokudai.ac.jp/~numazemi/>

## <研究目的・概要>

- 公共的意思決定が求められる場面(政策策定など)で
- ・“絵に描いた餅”だけの計画(理念だけで行動が伴わない施策)?
- ・価値や利害の異なるステークホルダー間の対話ができない?



“共通目標の共有化”がカギ

- ・新たな価値を共有し現実感をもつ
- ・異なる利害を乗り越えた共通の価値を見出す
- ➔ 決定プロセスのデザインが重要

処方箋(あるべき決定プロセス)の開発と評価

実務者とのコラボによる

環境政策策定プロセスの協働実践を通じて、研究遂行と研究成果の現場への還元を同時に実施

## <研究計画の特徴>

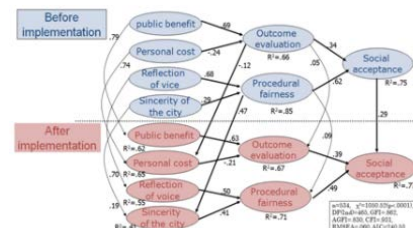
- **協働実践**:本プロジェクトの活動そのものが政策提言であり、成果の社会還元
  - 北海道をフィールドに、道内自治体やNPOなどの主体とともに取り組む
- **ゲーム実験**:現実には起こらなかった(起こせない)事象を仮想的に構築した社会で実験
  - 実験室に係争状況を再現し、葛藤の生起と緩和のプロセスを分析



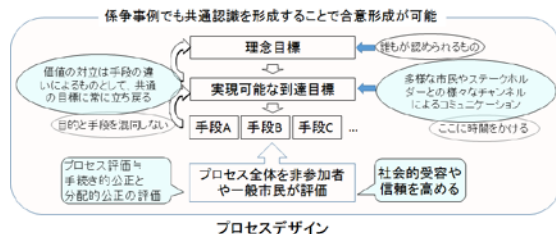
釧路湿原

## <目標とする研究成果>

(1) 政策の個別効果だけでなく、プロセスも含めた包括的な評価



(2) 複眼的な政策提言



函館の夜景